

# 東北「道の駅」大震災 研究プロジェクト

フィールドワーク参加学生の現地報告

## 目次

- ・東北「道の駅」大震災研究プロジェクトとは
- ・現地フィールド調査
- ・調査でわかったこと、感想
- ・プロジェクト報告会のお知らせ

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

2

## 東北「道の駅」大震災研究プロジェクト とは

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

3

## はじめに・・・



「道の駅」にはどんな機能があるでしょう？

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

4

## 休憩機能



駐車場やレストラン、トイレ  
などが完備され休憩できる



12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

5

## 情報発信機能



地域情報や道路情報  
目的地情報などが発信  
されている

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

6

## 地域連携機能



地元の特産品や野菜が販売され、地域との連携機能がある



12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

7

## 道の駅とは

複合多機能型休憩施設 全国に977駅

休憩、情報交流、地域連携の機能を持った地域と共につくる個性豊かなにぎわいの場



利用者は・・・  
ドライバー(休憩機能) 観光客(情報・休憩・地域連携) 地域住民(地域連携機能)

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

8

## 防災拠点としての道の駅

東日本大震災を機に防災拠点としての「道の駅」が注目されている  
2011.6.10付け msn 産経ニュースより

【東日本大震災】

**変貌する道の駅 震災機に防災拠点に 避難所、生鮮食品、お風呂…被災者密着、**

2011.6.10 00:22 (1/3ページ)

主要道路の休憩所として知られる「道の駅」が東日本大震災をきっかけに変貌しようとしている。被災者に密着し震災直後には避難所となり、それ以降は生鮮食品を絶えず供給。家族を亡くした従業員らが奮闘し、温泉を提供したり、原発問題にあえぎながら再開にこぎつけた道の駅もある。災害時の拠点として道の駅を見直す動きも全国で進んでいる。(櫻井紀雄)

また他にも、自衛隊・消防等の基地、物資の集積配送場所、市場の開催場所など復旧・復興支援の拠点としても機能したと言われている。

「道の駅」が震災で果たした役割と今後の可能性を見つめること、「道の駅」という拠点を軸に、広域的な救援、復旧・復興プロセスを明らかにすることは、震災以後の日本の防災やまちづくりのあり方を考える上で大きなヒントになるだろう。

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

9

## プロジェクト概要

### ■目的と背景

今回の震災時に「道の駅」が果たした救援、復旧・復興支援機能の実態を明らかにし、道の駅が今後果たしうる役割を明らかにし、報告書及び報告会にて広く社会に提案する。このことにより、震災復興に寄与するとともに、多摩大学の研究実績および社会貢献活動を広くPRする。

### ■内容

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1) プレ調査         | 4) フォローアップ調査   |
| 2) 現地フィールドワーク調査 | 5) 報告書作成・報告会開催 |
| 3) 東北「道の駅」郵送調査  |                |

### ■体制

多摩大学地域活性化マネジメントセンターが中心となり、NPO法人東北みち会議の現地の協力を得て実施。

### ■財源

財団法人JKAの「平成23年度オートレース公益資金による体育事業その他の公益の増進を目的とする事業に関する補助金」の交付を得て実施。補助対象経費総額は2,921,000円。

### ■スケジュール

平成23年7月～平成24年3月31日

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

10

## フィールドワーク

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

11

## 現地フィールドワーク詳細

### ■調査概要

震災時に「道の駅」が果たした役割を把握するために、現地での駅長等へのヒアリングと駅の観察調査を行った。また、関係自治体へのヒアリングや被災地の視察も行った。主な調査内容は下記のとおり。・ヒアリング項目 震災発生から現在に至るまでの「道の駅」の対応と役割、他組織との連携、震災前の運営実態等・観察項目 「道の駅」施設の概要、食堂メニュー、駐車台数、客層、売れ筋商品など

■体制と調査対象 教員4名、職員1名、学生12名(4年生4名、3年生7名、2年生1名)が参加し、岩手チーム、宮城チーム、福島チームに分かれて調査。計28駅、3地方自治体の調査を実施。岩手:10駅、遠野市役所実施 宮城:8駅実施 福島:10駅、いわき市役所、川俣町実施

■期間:2011年9月5日(月)～10日(土) 9月5日(月)～9日(金)岩手、宮城、福島、現地集合で調査開始。教員が運転するレンタカーで移動。それぞれが調査。9月9日(金)3チームが仙台に集合。9月10日(土)調査結果の共有。現地解散。

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

12

## 本調査でのポイント

- ・ 駅長さんを対象としたヒアリング調査
  - ・ 震災時の被害状況および復旧過程
    - ・ インフラの被害状況/隣の商業施設や公共施設の被害状況/近くの道の駅と連携/今回の教訓、道の駅の課題、どのような機能をもたせたいか など
  - ・ 平常時の運営状況(震災時と比較できるように)
    - ・ 道の駅の成り立ち/運営体制/年間売り上げ/スタッフ数、雇用形態/駅長さんの経歴/取引先の数/防災への取り組み など
- ・ 「道の駅」観察調査
  - ・ 観察時の日時、曜日、天気
  - ・ 客層(観光客地元民、年齢層等)と利用客数(だいたいの賑わい感)
  - ・ 人気のある売り場や商品
  - ・ 駐車台数 など

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

13

## フィールド調査 行程 <福島エリア>

メンバー 松本先生・酒井先生・杉本・高橋・千葉・星野・北辻(5・6日)

- 9/5(月) 郡山駅 集合  
 ■「よつくら港」いわき市  
 周辺の津波被害確認
- 9/6(火) いわき市ヒアリング、現地確認  
 いわき市役所へ現地へ  
 ■「ひらた」平田村
- 9/7(水) ■「ばんだい」磐梯町  
 ■「裏磐梯」北塩原村  
 ■「喜多の郷」喜多方市
- 9/8(木) ■「安達」二本松市  
 ■「ふくしま東和」二本松市  
 川俣町(道の駅「川俣」) ※役場ヒアリング
- 9/9(金) ■「南相馬」南相馬町  
 沿岸(国道6号沿い)の被災地を通過して仙台市へ  
 宿泊先 集合
- 9/10(土) 仙台にて共有会 その後解散



12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

14

## フィールド調査 行程 <宮城エリア>

メンバー 久恒先生・岡・日吉・福本・安藤(6日)・北辻(7-11日)

- 9/5(月) 仙台駅 集合  
 ■「村田」村田町
- 9/6(火) 鳴子温泉へ移動(仙台→鳴子温泉)  
 ■「路田里はなやま」  
 ■「あ・ら・伊達な道の駅」大崎市
- 9/7(水) 石巻市へ移動(鳴子温泉→石巻市)  
 ■「上品の郷」石巻市  
 石巻市周辺の被災地の状況確認  
 ■「津山」登米市
- 9/8(木) 南三陸町、志津川周辺の被災地の状況確認  
 ■「大谷海岸」気仙沼市  
 気仙沼→道の駅「かわさき」または、登米市内を通過して一関へ移動
- 9/9(金) 三本木へ移動(一関市内→三本木)  
 ■「三本木」大崎市  
 ■「おおさと」大郷町  
 仙台市へ移動(「おおさと」→仙台)  
 宿泊先 集合
- 9/10(土) 仙台にて共有会 その後解散



12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

15

## フィールド調査 行程 <岩手エリア>

メンバー 中庭先生・金子さん・榎屋・高野・三谷・下村

- 9/5(月) 一関市 集合  
 ■「かわさき」岩手県一関市
- 9/6(火) 遠野市へ移動  
 ■「遠野風の丘」遠野市  
 遠野市ヒアリング(道の駅にて)  
 沿岸に向かい、被災地(釜石市、山田町)を通過して移動
- 9/7(水) ■「さんりく」大船渡市  
 ■「やまだ」山田町  
 ■「たろう」宮古市  
 ■「いわいずみ」岩泉町
- 9/8(木) ■「くじ」久慈市  
 ■「のた」野田村  
 ■「石神の丘」岩手町  
 盛岡市へ移動(「石神の丘」→盛岡)
- 9/9(金) ■「厳美溪」  
 仙台市へ移動(「厳美溪」→仙台)  
 宿泊先 集合
- 9/10(土) 仙台にて共有会 その後解散



12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

16

## 写真: 調査の様子



<南相馬> 駅長さんに案内してもらおう



<よつくら> 調査後の記念写真



<よつくら> 駅長さんにインタビュー

様々な道の駅を巡り、  
色々なことを学べた

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

17

## 写真: 震災の跡地



<南相馬> 何も残っていない津波被害の跡地



<いわき市> がれきの山



<よつくら>  
建物の壁に津波のあと

震災の跡地を巡り  
衝撃を受けた

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

18

## 調査でわかったこと、感想

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

19

## 調査で得られた知見 まとめ

### ヒアリング調査から得られた知見

- ・道の駅同士の交流が意外にも希薄であった
- ・防災拠点としての機能が必ずしも万全とはいえない
- ・震災直後は被災者に食べ物を提供できた
- ・駅長さんの経歴や震災直後のお話から色々なドラマがあるのだから、とじみじみ感じた・・・ など

### 観察調査から得られた知見

- ・野菜などを買いに来る地元住民の方も多かった
- ・各道の駅それぞれに特色があり、駅長さんも人を呼び込むために思考錯誤している
- ・やはり、トイレがどこもキレイ！！ など

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

20

## 参加学生の感想(一部抜粋)

- ・福島チーム
  - ・被災地を目の当たりにし想像以上の衝撃を受けた(3年生)
  - ・思っていたよりも活気があり前向きな方ばかりで、逆に私たちが元気をもらいました(3年生)
- ・宮城チーム
  - ・駅長さんを中心とする素晴らしい方々と出会いお話を聞いたことがもっとも大きな体験です(4年生)
  - ・今後の人生において東北の復興そして発展に貢献できる人材になると決意しました。(4年生)
- ・岩手チーム
  - ・民間と行政の動き方を見る事が出来て社会を少し覗けた気がした(3年生)
  - ・参加できて本当によかった。東北のみなさん、ありがとうございました(3年生)

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

21

## プロジェクト報告会のお知らせ

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

22

## プロジェクト報告会 詳細

テーマ : 『東北「道の駅」の震災対応の実態と新しい役割』  
日時 : 平成24年2月14日(火)13:00~18:00  
参加費 : 無料  
場所 : せんだいメディアテーク (<http://www.smt.jp/info/access/>)  
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1  
主催 : 多摩大学地域活性化マネジメントセンター  
協力 : 特定非営利活動法人 東北みち会議  
※ ご来場者には本調査の報告書を進呈いたします。

【主催者連絡先】  
多摩大学地域活性化マネジメントセンター  
〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1  
TEL 042-337-7766 / FAX 042-337-7765  
(担当: 久恒、松本、中庭、酒井)  
(事務担当: 武井)

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

23

## プロジェクト報告会 プログラム

- 13:00 開会 (12:30 受付開始)
- 13:10 基調講演  
『東北から考える日本創生への道 ~「道」という視点の重要性~』  
多摩大学学長 寺島実郎
- 15:00 調査結果報告
- 16:10 パネルディスカッション『道の駅に求められる新しい地域連携機能とは』  
《パネリスト》(予定)  
国土交通省東北地方整備局 道路部 道路情報管理官 赤川正一様  
道の駅「三本木」駅長 遠藤栄悦様  
道の駅「ひらた」駅長 高野哲也様 他
- 17:20 質疑応答
- 18:00 閉会

12/02/09

東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

24

## 引用

- msn 産経ニュース 変貌する道の駅 震災機に防災拠点に  
避難所、生鮮食品、お風呂...被災者密着  
[http://sankei.jp.msn.com/affairs/news/110610/  
dst11061000250000-n1.htm](http://sankei.jp.msn.com/affairs/news/110610/dst11061000250000-n1.htm)

ご清聴ありがとうございました

---